

第50回 柏市住民福祉大会

令和5年12月9日(土)、柏市住民福祉大会がアミュゼ柏クリスタルホールで開催され、地域福祉の活動者・団体が一堂に会しました。晴天にも恵まれ、会場はほぼ満員。地域福祉の大切さや力を改めて感じる、すばらしい時間となりました。



第一部

式典 福祉活動者表彰式

大切なのは「地域の力」

住民福祉に功績のあった170名の個人の方と25の団体の方たちを表彰。多くのご寄付をいただいた8団体の方に感謝状を贈りました。さらに福祉の心作品展の最優秀賞・特別賞に輝いた児童・生徒5名にも表彰状を贈呈しました(右ページ参照)。中川会長は「コロナ禍の影響で人々の孤立

化や生活困窮者が増えている中、『地域の力』が救う力になっている」と話しました。また、多年にわたり地域福祉に貢献されている方々へ感謝の言葉を述べると共に「行政とも連携しながら、これからも前進していきます」と挨拶しました。



第二部

トークライブ&コンサート 「息子と母で歩んだ『希望への道』」

トークも演奏も秀逸！家族の大切さ、前向きに生きる意味を教えられた、素晴らしき『道』。

「ここまで頑張れたのは、家族の連携があったからです」。母の啓子さんと祖父母に支えられてきた道。ヴァイオリンを始めたのはリハビリのため。「最初はこんなにお金のかかるものとは考えもしなかった」と明るく笑う啓子さん。「母は直感で動くんです。僕は考えて考えて行動する。そのバランスが良いのではないかと思います」。小学校ではいじめにあい、異変に気づいた啓子さんの言葉は「登校拒否しちゃうよ?」。母の明るさに救われた。「『3ヶ月くらいにする?』って(笑)。ピンチのとき、苦しいときは誰かに伝えることが大事なんだと気付きました」。一時は障がいのない友だちに勝つんだと、ヴァイオリンを『武器』にしようと闘争心だけで突き進んだ。「本当は違いますよね。音楽は誰かを癒やしたり、聴いてくれる人が明日から頑張ろうと思ってくれれば...その思いが伝わるんです。僕はそれを忘れていました」。啓子さんも「違う人格みたいでした。『人が好き』と言っていたもとの彼の方が生きやすいのに」と心配していた。そんなとき、恩師の言葉が彼を救う。「辛かったね。でも障がいを持っていない僕は、障がいのある君の気持ちをわかってあげられないんだよ。ごめんね。障がいはハンディではなく個性なんだと受け入れられた。「おしゃべり大好き!」な水晶さんの楽しいトークで、式町ワ-

ルドに引き込まれた会場。水晶さんと啓子さんの明るさから、家族一丸で生きてきた自信と力強さが伝わるトークライブでした。後半のコンサートでは広い音域を持つ5弦のエレクトリック・ヴァイオリンと、東日本大震災の瓦礫から作られた「津波ヴァイオリン」で、オリジナル曲や、耳馴染みのある楽曲を披露してくれました。バラードありロックあり。最後はステージを降り客席を1周しながら「Libertango」を演奏。明るく前向きなお二人から、ポジティブなパワーを受け取った90分でした。

しきまち みずき 1996年生まれ
式町 水晶さん ヴァイオリニスト、作曲家
神奈川県小田原市在住

いま話題の若きポップヴァイオリニスト。
3歳の時に脳性まひと診断され、リハビリの一環として4歳からヴァイオリンを始める。2018年、キングレコードよりメジャーデビュー。障がい者と健常者の垣根を越えて、地域社会や若者に夢・希望を届けたいとの思いでコンサート、ライブ、楽曲制作のほか、講演会も開催。東日本大震災の瓦礫から作られた「津波ヴァイオリン」を託されたヴァイオリニストとして被災地でのボランティア演奏を通し支援活動も精力的に行っている。2021年、TOKYO2020パラリンピック閉会式で「What a Wonderful World」を演奏。

しきまち けいこ
式町 啓子さん

脳性まひの障がいのある息子を女手ひとつで育て、プロのヴァイオリニストになるまで支え続けた。親子二人三脚で歩んできた子育て記「脳性まひのヴァイオリニストを育てて〜母から奏でた希望の音色〜」を2018年4月に出版

福祉の心作品展



テーマ「ともに生きる」

みんなが支え合って、しあわせに暮らしていくために大切なことは、そんな思いを作品にしました。

今年度は、市内小中学校23校から400点の応募があり、その中から最優秀賞や特別賞が選ばれました。入選作品はイオンモール柏やモラージュ柏に、また住民福祉大会当日には、ホール入口に展示されました。「たくさん笑顔や、人とのつながりを描いた心あたたまる作品に感動しました」という声が聞かれました。

最優秀賞
小学校低学年の部



やさしいところで みんななかよし

風早南部小学校 1年
中谷 月奏さん



みんなが にこにこえが おで いきていけるように、やさしいところをもってほしいとおもいかきました。

最優秀賞
小学校高学年の部



助け合いの花

松葉第一小学校 5年
秋吉 千佳さん



こまっている人をみたら、手をさしのべ、助け合えば、笑顔になる。元気になる。ということを伝えられたらいいな。という思いで書きました。

最優秀賞
中学生の部



あなたの手が人を笑顔にする



豊四季中学校 1年
佐藤 乃娃さん
人の数だけ笑顔があって、思うだけ、見ているだけでは、伝わらない。手をさしのべる優しさ、さしのべられた手をにぎる勇気が、必要だと思いました。

特別賞
中学生の部



みんな仲よし

手賀中学校 1年
春岡 優士さん



自分で思い出になったものを描きました。それはイチゴケーキです。これからもなかよくくらしたいです。

特別賞
小学生の部



みんなだいじ



十余二小学校 1年
佐野天音さん
みんなをだいじにするといいとおもいました。

